

サインに対する照度

SIGNをライトアップし、その役割を果たすには、周囲の明るさを確認し、環境に見合った明るさを計画することが必要です。



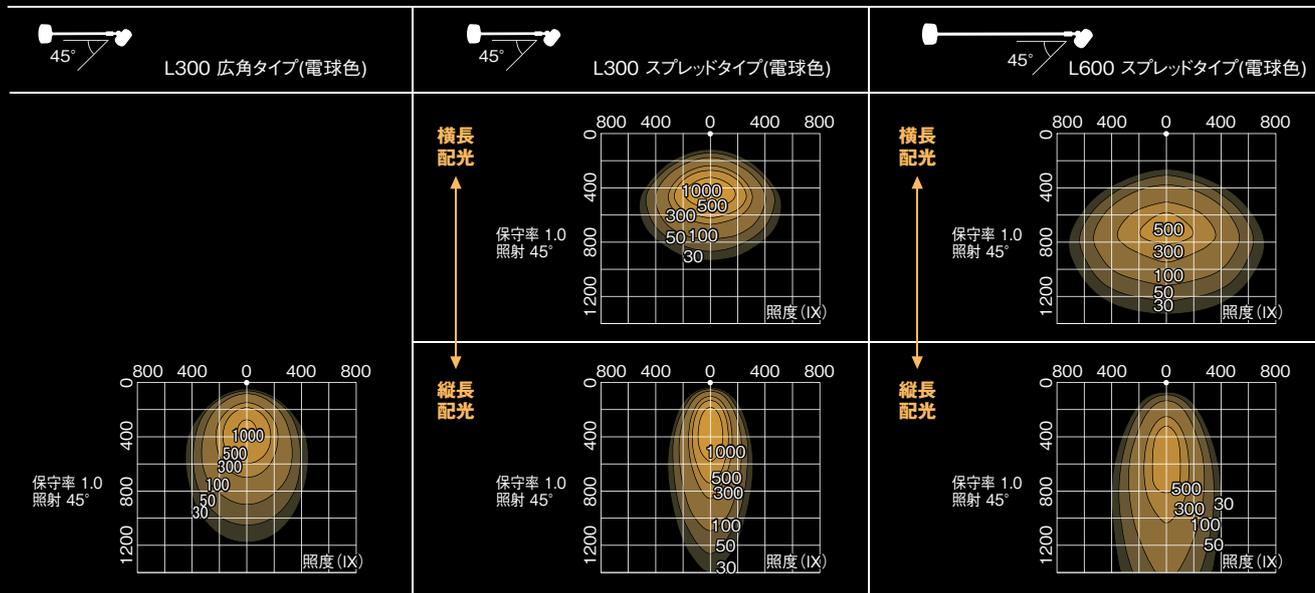
周囲が暗い
(光の影響を受けやすい)
300lx以上



周囲が明るい
(光の影響を受けにくい)
500lx以上

壁面照度分布図

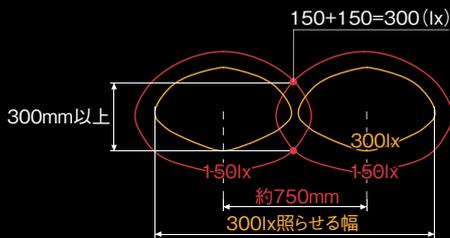
壁面照度分布図より設置時の照度範囲、設置距離の確認を行います。



多灯使い

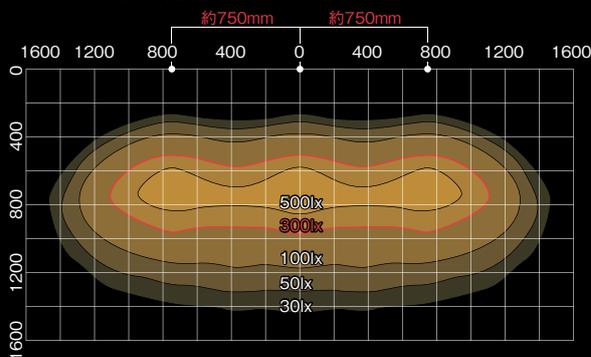
多灯使いをする場合は、壁面照度分布図の数値を足して必要照度の範囲を確認します。
必要照度の1/2照度エリアを必要の高さ分重ね合わせると配灯の目安ピッチが分かります。

例：L600スプレッド(電球色)にてサイン(W1500×H300)に対する照度を300lx確保する場合



- 1: 確保する照度の1/2照度(150lx)の目安をたてる
- 2: 1/2照度(150lx)がサインの高さ(300mm)重なるよう配置
- 3: そのピッチを目安に配灯ピッチを計画

750mm間隔で3灯設置した場合の照度分布図



様々なライティングテクニック

サインのライトアップでは、ただその存在のみを照らし明るくすることを目的としがちですが「店舗イメージを印象付ける」という、本来の目的においてはただ照度を得るだけでなく、陰影や照らし方でサインを目立たせるのもライティングの有効な手法の一つです。



陰影を強く出す

陰影を強く付けたライティングによりサインを照らすだけでなく、店舗の雰囲気までも演出し、印象付けることができます。

両サイドからのクロスライティング

光の形状をハッキリと見せることで、サインをただ照らすよりも目立たせることができます。サインの幅に柔軟に対応できます。



超狭角の光をプラス

発光しているサインにも超狭角(P.175)の光を加えることで、より人の目を引き、サインを印象付けることができます。